

ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える

# ふるさと 風

第168号（2020年5月）



白井啓治

（七）風の景と色の景（2009年5月14日）

『風が日を一枚めくると緑葉の色のもう一刷き強く』

ゴールデンウィークの真ん中、3日〜5日石岡市柴間にあるギター文化館の手伝いに出かけた。

3日間は、快晴の青空から、霞曇り、曇りから雨の陽気で、毎日異なる里山の風景を楽しみむことができた。陽気の創りだす風景には、好き嫌いの違いはあるが、甲乙だとか優劣の差はない。風と太陽の創りだす風景の見事さは、ただただその場、その時を理屈なく楽しむだけである。3日間、ギター文化館の前庭で、ぼんやりと風に吹かれながら風景に遊んでもらった。

手伝いといっても、昼食に付ける汁ものを作るだけのことであるから、里山の風に遊んでもらいに行ったのである。暖かく爽やかな風に吹かれながら風景、景色について思ってみた。

「景」とは日と京（くぎる）から成る漢字で、日の光りによってできる「かげ」を意味するものである。このことから風景とは「風のかげ」であり、景色とは「色のかげ」であることがわかる。

ギター文化館の対面に広がる里山の美しさは、風のかげと色のかげの見事なコラボレーションなのである。

そういえば監督時代によく撮影とは影を撮ると書くんだ。べつたりのつべらぼうな絵を作るな、影のない演技をするな、心の影を奇麗に表現しろ、と喚んでいたものである。この里山には風の、そして色の明確な影がある。



（絵：兼平ちえこ）

この3日間ギターフェスティバルが開催され、アマチアのギターコンクールも行われている。前庭に憩いのスペースが作られ大勢の人がギターの練習をしている。そしてギター談議に花を咲かせている。それらの話を耳にすると、殆どがマニア

ックなテクニカル話ばかりである。申し訳ないが、風景が、景色が泣いていると思ってしまった。

身近にいる文章修行や俳優修行の人達には口を酸っぱく言っている。感動はテクニクの中にはありませんよ。技術で感動は作れません。小学生の拙く幼い語彙の中にも震えるような感動が生まれるのですよ、と。

しかし、しかし、この里山の風に身を委ね、戯れていると、のほほんと気持ちが良いのだから、あとはどうでも許せるか。うん「許そう」と思ってしまった。

（本稿は故白井啓治氏が常陽新聞に2008年7月より約1年間に亘り掲載されたエッセイを載せています。）

## 《ふるさとの風に吹いて》

（以上は昨年6月末になくなられた本会の主査で脚本家の白井啓治氏の3年前の記事である。それから本会に主査はいない。会員それぞれが氏の遺志を受継ぎ本会の運営を継続している。）

言葉を考えなくなった時、詩がうまれる。  
言葉を考えると説明が顔を出す。

言葉は、真実は伝えない。言葉が伝えるのは事実だけ。真実とは事実と事実の隙間にひっそりと隠れてある。言葉で真実を伝えようとすると、真実を心に籠めて、確かな事実の言葉を紡いでいた時、言葉と言葉の隙間から真実が顔を出す。言葉で真実を伝えようとすればするほど真実は遠ざ

かつていく。……脚本を書く時、文章を書く時、この事をいつも念頭に置いて原稿用紙に向かう。

### 『手話舞について』

聾者の人達には、言語学的には確立されていませんが、もともと聾語というべきものがあつた。ここで言う聾語とは、言語学に言う伝統的手話とは少し異なる。

中野善達・吉野公喜編著「聴覚障害者の真理」の中で伊藤政雄氏が書かれた「日本手話の言語的構造」で次の様に述べている。『手話には「話し」とば優先手話」と「イメージ優先手話」とがあり、前者は、ことばが優先して「手話が後から追いかけていく」のに対し、後者は「自分なりのイメージを手話で表す」「イメージから話しことばに関係なく手話が出てくる」と。

このイメージ優先手話がここで言う聾語の概念に近い。

ことば座の主張する聾語も伊藤氏の言うイメージ優先手話も健聴者の人達には認識・理解が難しいものである。しかし、この聾語あるいはイメージ優先手話の表現を聾者の独特の才能として理解すると、その言語としての動作表現は、優れた舞や舞踏と言え、舞台芸術としての新たな方向を導いてくれると言える。

小林幸枝の手話舞は、個々人の感性としての聾語・イメージ優先手話をベースに日本語対応手話を融合した「舞い」あるいは「舞踏」として表現している。

ことば座では、この表現形式を「朗読手話舞」と名付け、呼んでいる。

## インフルエンザ余話

菅原茂美

昔、イタリアで冬になると咳や高熱で多数の人が死ぬ。占星術が盛んだつたので、冬に現れる星座の影響と考え、イタリア語の「影響」インフルエンツァ」が、英語ではインフルエンザになったと、ものの本に書いてある。

1918～9年のスペイン風邪は、恐らく人類史上最大の感染症だつたと思われる。全世界で、ほぼ5千万人が死亡した。日本でも48万人が死亡した。当時の世界人口19億人なので、6億人が感染して5千万人が死亡したという。現代人口にそのまま換算すると、72億人の中、22億人が感染し、1億8千万人が死亡する事になる。

なぜ「スペインかぜ」といわれたか？それは当時第一次世界大戦の最中。戦争関係国は互いに風邪流行の発表などしない。戦争に直接関係しないスペインで、大発生を発表したからだ。アメリカでの被害は大変なものであつた。アメリカは大陸横断鉄道建設のため、中国人が多数働きに来ていた。実はその中国人がアメリカに強力な風邪を持ちこんだと言われる。中国は庭先に豚を放し飼ひ。豚は川に水を飲みに行く。川や沼には渡り鳥がインフルエンザウイルスをまき散らしている。それがブタに感染し、豚は人にまた感染させる。鳥や豚にはそれほどダメージではなくとも人間には甚大な被害を及ぼす。動物種を渡り歩く間にウイルスは突然変異で病原性を増す。アラスカの永久凍土にスペイン風邪で亡くなった人の遺体が埋められており、1997年にその遺体から、スペイン風邪病原体の鳥インフルエンザウイルスが検出された。インフルエンザは怖い。まず予防注射を！

(本会の会員であつた菅原茂美さんは昨年末に亡くなられた。獣医や県の動物たちの検疫などのお仕事をされていたために、いつも鋭い指摘をされていた。今回の新型コロナウイルスによる感染拡大を受けて、もし今ご存命ならば何と言われるだろうと以前本誌に発表された記事を探してみた。これは今から4年ほど前の2016年1月号に掲載されたものだ。慎んでご冥福をお祈りします。)



### 地域に眠る埋もれた歴史(60)

木村 進

#### 【八郷地区】(3)

## 2 柿岡地区

### 2.1 丸山古墳 (県指定史跡)

市役所の八郷支所前の道をそのまま北に真っ直ぐ進むと恋瀬川を越えた先に、佐志能神社への登り階段と鳥居が見える。車の場合は左右にまわれれば古墳などの手前に出られるが道は狭い。丸山古墳(1号)は神社の左奥に位置する。

丸山古墳は、八郷盆地の中央を流れる恋瀬川の流域に展開する広大な沖積地に南面して、柿岡の高友丘陵の景勝の地に占める全長55m・高さ7mの全公園方後方墳で、古くから第10代高神（すじん）天皇の第一皇子豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）の奥津城として伝承され、古墳の近くに鎮座する佐志能神社とともに顕彰されてきた。



丸山古墳

豊城入彦命については日本書紀では天皇が二人の息子に見た夢の内容を問うて、豊城入彦命が「御諸山（三輪山）に登り、東に向かって槍や刀を振り回す夢を見た」と答え、弟の活目尊（いくめのみこと）は「御諸山に登り、四方に縄を張って雀を追い払う夢を見た」と答えた。それを聞いた、高神天皇は、弟の活目尊に天皇の位を継承させ（垂仁天皇、兄の豊城入彦命には武器を持って東国を

治めると命じて東国に派遣した。（弟の見た夢は領土の確保と農耕の振興を考えているとみなされたとされる。）

この豊城入彦命が東国の制覇にやってきたのは3〜4世紀頃？と考えられており、そのルートは東山道を通って前橋や宇都宮の方からこの八郷方面に進出したと思われる。その後の黒坂命やタケカシマ、ヤマトタケルなどは東海道または一部海上ルートなどでやってきたであろうと思う。ではその時の八郷盆地はどんな姿であったかを想像するとこの盆地には大きな湖が広がっていたようである。丸山古墳がこの豊城入彦命の墳墓ということとは前橋の古墳説もあり断定できないが、この古墳という考えもかなり有力だと思われる。



史跡・丸山古墳と佐志能神社

昭和27年12月明治大学後藤守一教授の指導の下に学術調査が行われ、その結果、後方部の墳頂下

約2mの地点から粘土床が発見され、内行花文鏡をはじめ、銅銭、勾玉、鉄刀、刀子などの副葬品が出土した。これらのことから、丸山古墳は前方後方という珍しい墳形であるとともに、副葬品の内容などから、五世紀の初頭の頃に築造された県下でも代表的な古式古墳となっており、東国の古墳時代研究には欠かせない存在であるという。

高友の丸山丘陵の中央の丸山古墳と佐志能神社は、大和朝廷の東国討伐に大きな業績を残された第十代高神天皇の第一皇子豊城入彦命の奥津城であり、命（みかど）を奉斎した杜として、古くから崇敬され保存されてきた。佐白塚古墳、二子塚古墳等ゆかりの古墳役三十基を丸山古墳群と称する。副葬品は柿岡考古学博物館に保管、一般に展示公開されている。古墳は周りをフェンスで囲っており、中には入れない。一帯は公園化され、きれいに整備がなされている。また平成13年にふるさと創造事業として「古代散策ロード」と名前がつけられた行程5.7kmの道が続いている。約2時間20分程度の所要時間であるので時間があれば散策するのも良い。見所は県天然記念物「佐久の大スギ」「丸山古墳」「佐白塚古墳」などで、眺めも良いようである。

二子塚古墳は丸山古墳（丸山1号墳）の東方30mに位置する。古墳としては横穴式石室を有する中規模の前方後円墳であり、主軸は西北方を示し、丸山古墳及び筑波山に相対して築かれている。

墳丘からはきめ細かな粘土を用いて焼かれた円筒埴輪や形象埴輪（人物・馬など出土している。県内の横穴式石室を有する前方後円墳としては、

比較的早い時期に築造されたものと考えられている。(全長35m、後円部径20.5m、高さ3m、前方部端幅18m、高さ2.7m)古墳の手前には万葉歌碑が置かれている。「庭に立つ麻手刈り干し布さらす 東女を忘れ給ふな」(石岡小学校の石碑と句は同じ)

## 2.3 柿岡城址 (現柿岡小学校)

現在の柿岡小学校の敷地には昔、柿岡城があった。学校の敷地内に説明看板がある



現柿岡小学校入口 (柿岡城址)

〈現地案内板〉

柿岡の西南館地内の高台にある。三方を田園にかこまれ、西北の一線が善慶寺を境として町家に接し残塁空濠四辺をめぐってその間に民家が軒を

つらねている。源頼朝が幕府を開いたころ、常陸守護職に補せられた八田知家がその子小田時知(時家ともいう)をここにおいたといわれ、それからのち代々柿岡氏を称え、東西三キロの片野城とともにこの地方を支配していた。戦国末期には、梶原美濃守政景居城となったが、天正元年小田天庵氏治が太田三楽父子に攻められて敗退するや、柿岡城には真壁房幹が入った。文禄四年(1595年)の秋から長倉義興が居住すること六年、慶長五年(1600年)に急死した。その後国分盛重に代ったが、徳川になってから後、九州柳川立花氏の領地となり、稲葉正勝の領地を経て徳川氏の直領として代官の支配となり、明治維新まで続いた。説明を読んだだけではよくわかりませんので、少し時系列的に調べた内容を書いてみましょう。建久3年(1892年)常陸国守護(鎌倉幕府)であった八田知家が築城し、知家の十男小田時知を城主に置いた。これが柿岡氏の始まりという。柿岡時知が初代。つくば市や土浦市で勢力を持った小田氏だが、戦国末期となると佐竹氏との攻防が激しくなった。太田道灌の曾孫で知将として知られる(武蔵国)岩付(岩槻)城主であった太田資正(三楽斎)が自分の城を息子に奪われて困っていたのを知った佐竹氏が味方に引き入れて片野(石岡市)に城を持たせた。太田資正は手這坂で小田を破る快挙をとげ、次男梶原政景をこの柿岡城に住ませた。このため戦国末期は柿岡と隣の片野に佐竹派の太

田氏が支配することとなった。永禄12(1588年)に佐竹氏が小田城の攻略に成功するとこの小田城に梶原政景が移ったため、ここに真壁房幹が入った。その後1598年に真壁房幹が大島城(つくば市上大島)に移り、そこへ長倉城の長倉義興が入った。(長倉城は後で述べる)長倉義興が1600年に没したため国分盛重が城主となるが佐竹氏の秋田転封により、国分氏もその前の真壁氏も秋田へ移った。江戸時代に入ると慶長19年(1614年)立花宗茂の弟直次が5000石で入り、立花氏が筑後国三池に移った後、元和9年(1622年)稲葉正勝が5000石で入った。稲葉正勝は春日(お福)の子供(長子)であり、お福が竹千代(後の徳川家光)の乳母となり、子姓として竹千代に仕える。家光にかわいがられ柿岡城の城主となった時は5000石であったが、2年後には1万石に増えられ、1628年には父の遺領(真岡藩)も継いで4万石となった。その後の熊本城受取の働きを認められ、寛永9年(1632)に小田原城85000石の城主となった。江戸幕府の老中となったが38歳で没した。正勝が小田原に移って後は、柿岡藩は天領となった。真壁房幹は「幹(もと)」の字が名前に入る通り、府中城の大掾氏と兄弟分の平氏だ。多気大掾(北条)から分かれたもので、現在の桜川市真壁城の城主でもあった。佐竹氏の秋田転封に伴い秋田の角館に移ったが、石高を減らされ、多くの家臣は移ることができず真壁に残ったようだ。

柿岡に現在残っている文化財、祭り、町立てなどを見ていくとどうも戦国末期に入った長倉義興の時のものが多いように思われる。このため、柿岡を知るためには、この「長倉」も見ておく必要がある。場所は御前山近くだ。

(長倉)

御前山の那珂川大橋を渡って県道123号線を川沿い進むと昔の街並みが続く。「下町」「中宿」「上宿」とあり、さらに5 kmほど上流にいったところに長倉という街がある。御前山を知っている人はおそらく日帰り温泉保養施設「四季彩館」を知っておられる方も多いと思う。四季彩館とは間に大沢川という山から流れて那珂川に注ぐ川の対岸に当たる。



ここに中世に「長倉城」があった。鎌倉時代末期の1317年頃に佐竹氏7代佐竹行義の次男である佐竹義綱(義継?)がこの地を得て、築城し長倉氏を名乗ったのに始まる。

長倉3代の長倉義景(常陸介)の代に本家佐竹氏に男児がなく、このため室町時代の守護大名(関東管領)であった山内上杉家(上野・伊豆守護)から養子を迎えようとしたことにこの長倉氏と山入氏がともに反発し1407年、長倉城に立て籠もり交戦した。しかし城を囲まれて、1408年に城を開けて降伏した。(山入一揆)その後も、上杉禅秀の乱などが起こり、鎌倉公方(足利持家)と室町幕府側の争いでは、幕府側について公方側により城を囲まれ(約5000名が城を囲って攻めたともいわれる)大合戦となった。しかし、この城はたいそう堅固で、そこに籠った長倉義景の子義成を攻め落とすことができなかったという。最後は1455年に城の包囲を一部解き、長倉義成も城を開放して軍門に下ったとされている。前の地図を見ると「長倉城跡」は北側と東側が大沢川からの崖となっており、こちら側からは攻めることができなかったようだ。その麓に曹洞宗「蒼泉寺」というお寺があるが、長倉氏がいた頃はここに「善慶寺」という寺があった。この善慶寺は長倉氏が石岡市柿岡に移った時に、一緒に柿岡に移動した。

## 我が労音史(18)

木下明男

20代に参加した労音運動は、1970年からは労音の中心活動家として参加しています。そして、労音改革の責任者の一翼を担う様になり、実践の中から学んだ内容を記述していきます。

1988年の社会情勢と音楽状況

為替相場が1ドル120円の最高円高を記録。青函トンネルや瀬戸大橋が開通。アフガニスタンからソ連軍が全面撤退を開始し、イランとイラクが停戦協定を成立。第24回オリンピックが韓国で開催、アメリカ大統領にブッシュが選出される。スエーデンが原発廃止を決定。ソ連のピアニスト、Sブーニンが西独公演中に亡命。文化庁が文化白書を発表。平井澄子(邦楽家)が第18回モービル音楽賞を受賞。反核日本の音楽家たちが「グローバル・ピース音楽会」を開催。竹下内閣が全市町村にふるさと創生交付金1億円を決定。日本医師会が脳死を認める。

この年に逝去した著名な音楽家・文化人は、柴田陸(声楽家)・田谷力三(声楽家)・須藤五郎(労音創始者)・原太郎(わらび座主宰)・宇野重吉(新劇俳優)・三木武夫(元総理)。

1988年の労音の動き

創立35年を迎える東京労音の第36回総会が労音会館で開催。総会の冒頭、創立以来のスローガン「良い音楽を安く多くの人に」「企画運営は会員の手で」「国民音楽を育成創造しよう」を掲げて、労音運動は職場・地域のサークルを基礎に運動を進めてきたことを確認。そして、この総会の目的

と意義について以下5点を挙げた

- 1) 労音運動の歴史から学び、サークル強化と1万名の会員・1000サークル・300名の委員の実現。

- 2) ブロックで3ヶ年計画を立て、都内全域に地域委員会の確立と前進拡大を目指す。

- 3) 運動に相応しい例会と多彩で豊かな音楽文化の創造。

- 4) 各ブロックが独立労音を目指し、民主的組織と共に地域文化の発展を目指す。

- 5) 全国の労音運動に責任を持っている東京労音の運営体制を強化する。

総会では、労音をめぐる状況について分析、「企業利益の社会還元」と称して企業の音楽文化活動に実態が、商品販売の総合手段と企業イメージの向上手段として位置づけ、マスメディアと深く結合して展開されていることが具体例として出された。日本の文化情勢が貧困である根本は国家予算の中にあると指摘し、軍事費が年々増額される反面文化予算が減額されていく実態について、直近5年間の国家予算に占める文化費を先進海外諸国と対比して示した。更に首都圏の都市には、各自治体による音楽ホール建設が進み、その自治体は外郭団体（文化財団）を新設しホール独自の文化催事（音楽会等）を主催している。

総会では、1980年代前半の労音運動の状況を分析し、今後の展望について提起した。東京労音は1965年を頂点に会員数が減少し、1982年には会員数1万人を割りました。それでも組織を運営できたのは、一般に要求の高い（人気のある）例会を実現し、サークルの弱体化を大量宣伝（メディアを利用）で補い例会を成功させてきた。地域委員

会では、大型例会の成功のために「会費が安い」

「会場が遠い」の声を説得しながら、大目標をもって拡大活動を進めてきた。創立以来掲げてきた

「勤労者を基礎に、要求に応じて鑑賞と普及の活動を広め、音楽の大衆的・民主的発展を図る」「サークル活動を通じて、勤労者の文化的・民主的権利を向上させる」本来の役割から離れた労音運動

になっていった。以上の反省から「組織力量の低下、サークルの弱体化を克服し、労音運動を支える活動家（委員）の一人一人が、職場・地域・学園に

豊かな音楽文化を創る担い手である」と総括し、第33回総会方針（1985年）を再確認した。

- 1) ブロック・地域を軸にした労音作りを目指す。ブロックの財政は独立採算にする。事務局体制の省力化（13名↓3名）し印刷・サービス

- センターは独立させる。事務局依存の運動から脱却し、サークル・会員に依拠した活動を復活させ、活動家が運動を切り開いていく自覚と役割を明確にする。

- 2) 地域例会は人との繋がりを大切にし、勤労者を励まし生活感情を反映する例会を、近くて・安く実現する。地域の民主的な文化団体

- や運動と協力して労音運動の基盤を強化する。豊かな音楽・文化の創造と専門家との連携の強化をする。

- 3) 職場・地域にサークルを広く組織し、新たな担い手を育成する。人間関係が希薄になりバラバラなっている職場を、労音サークルが音楽を媒体とした仲間の関係を作る。活発なサークル活動（仲間の輪作り）を進めることが大切

- です。地域例会の重要性について次のように強調している。地域に根を下ろす活動は、

その地域の中に豊かな音楽文化を創造する活動です。地域例会はサークル会員を掘り起こし、地域活動を強化する原動力です。これらの実績として地域例会の組織は、1984年は2

種目2800名、1985年は11種目5200名、1986年は11種目9260名の成果を上げた。

《1987年度の活動のまとめ》

- 1) 地域の文化活動や専門家、民主運動との結合を強化してきた

- 2) ブロック独立労音の力量をつける地域例会を積極的に企画・制作した。

- 3) 民族音楽教室は、地域の行事に出かけ、演奏活を通して労音を広める役割を果たした。

問題点としては

- 1) 組織目標（会員1万人・1000サークル・300委員）未達成。月平均3119名（目標の37%）

- サークル数182（目標の18%）

- 2) 新たな担い手（新委員）が育たず、特に若い活動家が育っていない。

《1988年度の活動の力点》

- 1) ブロックは地域内の状況を分析し、対象を明確にした計画を立てる

- 2) 職場・地域の要求に基づく例会の実現、「労音らしい」例会づくりを目指す

- 3) サークルとの結びつきを強める。「例会ニュース」を会員に届ける。地域委員会はサークルの要求を反映した運営をする。

《委員サークルの現状と役割》

現在の労音には、労音合唱団・六弦会・民族音楽研究会・アコーディオン研究会・フォークダンス愛好会が活動している。これらのサークルは、会員が演奏したいとの要求から生まれ、25年の歴

史を持っている。演奏サークルの役割を総会で明確にした。

- 1) 会員の音楽する要求に応え、演奏サークル会員を増やし、音楽活動。労音活動を広める。
- 2) 演奏サークルの構成員は全員労音会員である。
- 3) 各演奏サークルは委員を選出し、東京労音の委員会に参加し活動報告や意見を反映させる。
- 4) 運営委員会・委員会の課題に積極的に取り組む。

この年は地域委員会の確立を軸にブロック労音建設に向けた活動を重点に、全体で地域例会が35回行なわれ、13510名(前年比150%増)を組織。全ブロックで取り組まれたロシア民族アンサンブル「カラゴト」、都心・東部・都下ブロックではユリー・ローズム(ピアノ)が取り組まれ創意工夫が生かされ成功している。全国労音共同企画例会(ベルマン・チモフェーワ・デミジェンコ・ブーニン)ピアノノマンハッタンバレエ/国立ポルドーオーケストラ/ズイキナとロシア民族楽団)は、いずれも芸術性に優れた高い評価を得た。なかでもベルマンピアノリサイトル(サントリーホール)ではイタリア製超大型ピアノ「フアジオリ」を持ち込み話題を呼んだ。またマンハッタンバレエは初来日で知名度が低く不十分な組織だったが、ガーシュイン作品集で演目に注目を集め高い評価を得た。

カンパを前例会で取り組み30万円を集めた。伝統音楽では、地域例会を中心に高橋竹山・荒馬座・ふきの会と車人形・中国音楽楽団・張曉輝・狂言が取り組まれ、運動の幅を広げ会員を増やした。18年間民主団体・音楽団体・劇団に愛用されてきた全国労音会館の閉館記念コンサートが様々なジャンルの出演者により、さよならイベントを会館のR'sホールで1ヶ月に渡り開催し5000名を組織した。

例会外の活動として、新春交流集会は東部ブロックが担当し、高橋忠史や富井多恵子、荒馬座が出演。また早乙女勝元氏による記念講演が行われ250名が参加。スキー友好祭は尾瀬片品岩鞍スキー場に200名、夏の友好祭は西湖浜の家キャンプ場で150名を集めた。これまで、労音の担い手の多くが友好祭運動から生まれてきたが、年々減少する参加者の傾向に対策が遅れている事が総会でも論議された。早急な抜本対策が望まれている。

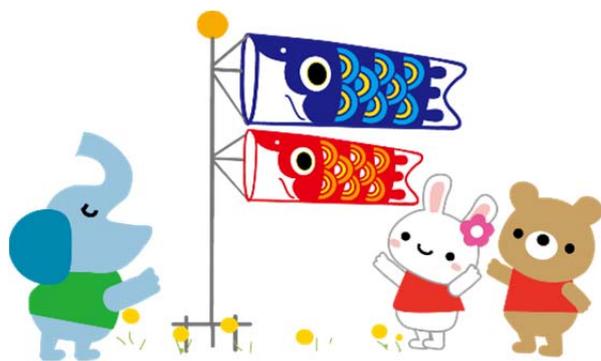
第34回全国労音連絡会議は、横浜の近代文学館に59団体149名が集まり開催された。会議では、労音運動40周年を記念する行事として

- 1) 各労音の運動史をまとめる
- 2) 翌年、東ベルリンで第九交響曲を演奏(合唱参加)する。東京労音は300名組織を決めた。また、天皇の病氣重体を理由に自粛風潮が煽られる事態に、会議参加者総意のアップル「主権在民、民主主義を破壊する。天皇美化・礼賛」に反対する」が全会一致で可決された。

1957年以来、全国労音運動の機関誌として発行されてきた「月刊音楽」(創刊時は「全国労音ニュース」)その後「月刊労音」は、会員数の減少と運動の停滞から減誌が著しく財政負担と編集面の力

量不足もあり、この年で廃刊が決定された。海外交流活動では、翌年の「モスクワ・クラシックバレエ」招聘とベルリンでの第九合唱参加の折衝に向けて代表6名(東京4大阪、横浜)をベルリンとロンドンへ派遣。この年の労音数は77団体5000人。

つづく



## 石岡市指定文化財(二十二)

兼平智恵子

刻々と変化していく新型コロナウイルス情報、それに対応出来る危機感と予防策を皆様共に持ちたい。

こう指示されたから!これもできない!あれもできない!家の中にばかりいられない!遊びにいけない!パチンコ店が開いてるから行く!聞くとところによるとネット茨城県石岡市のどこそここのパチンコ店が良く出るからと高速で千葉

県柏市から来たという人がいたという！（パチンコ店内はこういう人達が蔓延しているのでしょう）

危機意識を持たない人、不平不満ばかりの人、耳にするたびに悲しい！我慢しよう！工夫しよう！

命がけて命を守って下さっている医療関係の皆様！懸命に注意を発してくれています閣僚の皆様、各県知事、各市長の皆様、報道機関の皆様！

身案しながらライフラインで必死にご活躍なさっている皆様！

本当に本当にお疲れ様でございます有難うございます心から感謝申し上げます。

早期の特効薬の開発

早期に誰もが受けられるPCR検査

早期の隔離 早期の治療 智恵子

新石岡市長、谷島様に望みます！

感染したのでは……と恐怖の毎日、心配の誰でも受けられるPCR検査の態勢拡大。そして早期に軽症、無症状者を発見し感染してしまった人達の完全隔離の施設の確保。

軽症だからと自宅待機なんてもつてのほか、この自宅待機が感染者拡大最大の要因と思います。重症者を出さない為、医療関係の皆さんのご負担を減らす為にも、早期のご手配を切に切にお願いいたします。

緊急事態の日々、不自由な日々、智恵出し合っけて乗り切りましょう。国からのマスクの配布はここ石岡市にもあるのでしょうか。私達夫婦は手作りマスクで十分です、医療関係の皆さんに差し上げたい。

昭和の日に東京多摩市に住む、息子夫婦、高二

と小三の孫息子の元気な声にほっとする。

本題の石岡市指定文化財紹介に入ります。矢口石見守の馬旗標

国府三一―一十三

有形（工芸品）

昭和五三・八・二三指定

江戸時代、府中石岡の本陣だった矢口家に伝わる馬旗標（うまはたじるし）という、戦いの際、武将が鞍上（あんじょう）で付けていた旗である。

「石岡市の文化財（石岡市教育委員会発行）によりますとこの旗は縦一一〇cm、横四五cmで、黒字の木綿に五本の黄色の横縞がある。

天正一八年（一五八〇）十二月佐竹義宣勢の襲撃により府中城は落城、城主大掾清幹はわずか一八歳で自ら命を絶ち常陸大掾氏は滅亡した。

この時府中城主大掾清幹に仕える武将であった矢口石見守（やくちいわみのかみ）は、部下数名とともに一時奥州へ逃れた。その後、佐竹氏が秋田へ領地を移した後再び府中に戻った。この旗は、その大掾清幹と佐竹義宣の合戦の折、矢口石見守が使用したものである。」

矢口家の遠祖は、武蔵国六郷川のほとりに在り、北条高時に仕へ矢口郷を所領、当時長崎姓を名乗っていました。矢口と改姓した。先祖重維より六代目 矢口重長時代に、府中を永住の地とし常陸大掾氏へ身を寄せたのは、北条氏と同族からであった。

天正十八年、矢口石見守重長は、常陸大掾氏と共に佐竹義宣勢と奮戦したが戦い利あらず、四圍に要塞堅固を誇っていた府中城も遂に落城したのだった。

奥州に逃れた石見守は、岩城伊豫守に菊田郡沼部五十石を賜った。しかし慶長七年、佐竹氏が秋田転封と聞き、府中へ戻り六郷兵庫頭（かみ）より代官職を命ぜられ、皆川山城守時代には知行百石取りとなった。その後、石見守重長の子重隆の代は、松下八太夫氏に仕え、その子重兼の代には、松平伊豆守の支配のもとで里正を務めた。

先祖重維より十一代重士の代、元禄十三年、松平播磨守の支配になると、郷土となり府中本陣を司り、代々平右衛門を襲名した。同家には今も、石見守使用の馬旗標が秘蔵されているそうです。

今回は貴重な文化財を目にする事は出来ませんでしたけれど、石岡の古文書を学んでいる現在八十代の方は、拝見されたとの事でした。

石岡市内に完備された歴史館が整備され、こうした重要な価値ある文化財を目にする事が出来る穏やかな日々が来ることを心から待ち望んでいます。

参考資料 石岡市史 上巻

石岡の今昔 齋書房発行

## 第六回学習会

### “四十八津を学ぼう”

伊東弓子

当日の準備に入っていく中で、病気の広がりが増えていく不安が募っていく状況となり迷い始めた。行うか、先に延ばそうか、止めようか、いや実施しよう、と決心してからも心の中では迷っていた。ここでぶれては不味いと決断し、両先生にお願いしたのは二月、周りでは不安そうな声も聞こえてきたが、そうなるかと、居直る気持ちも出て「否、行うぞ」と、決断した。前の晩、ある人から、「明

日、やんでしよう。もう“ミノレ”モ”アピオシ”も、みんな取り止め、取り止めと、言っている。明日は楽しみにしてるよ”との声に気をよくして当日を迎えた。

当日の出足は十九人、両先生を加えて二十人台（二十一人）になった。嬉しい限りだった。

千葉先生の話は、

霞ヶ浦自主組織 四十八津とは？

― 自然と共生した先人の知恵と行動 ―

1、はじめに霞ヶ浦と人類の共生の始まり

2、中世の海夫の活躍と津の繁栄

3、霞ヶ浦四十八津

4、霞ヶ浦四十八津掟書

5、おわりに霞ヶ浦と人類の共生のために

五ツの柱を立てて、息つく間もない語りかけで一時間の中で纏めてくださった。きつと語るには足りない時間だった事を申し訳なく思う。

長い時間をかけて出来た地球の中の一存在である人間の歴史の努力は素晴らしいと思つたが、思いついた人間たちが、今地球を壊そうとしている事に気がつかねばと、その為に私たちは何をすべきかを改めて思つた。

休憩時間に帰る人が出るんじゃないかと、気になったが、そういう事もなくほっとしたひとときだった。唯参加者の一人が出入口の所で居座っているの、中に入るように誘つたが、ガンとして聞き入れてくれないのには手摺つたが、最後は無理強いしなかった。

本田先生の話は、  
“原始古代から現代まで”

「時代で変化する霞ヶ浦」

◇旧石器時代 「霞ヶ浦はどこにある？」

◇縄文時代 「内海としての霞ヶ浦」

◇弥生時代 「弥生人はどこにいる？」

◇古墳時代 「君臨する古墳」

◇奈良平安時代 「常陸風土記」

◇鎌倉時代 「田余郷と大枝郷」

◇室町時代 「海夫注文」

◇江戸時代 「大宮八景」

◇明治時代 「蒸気船がくる」

◇大正時代 「八木干拓」

◇昭和時代 「高浜入り干拓事業と霞ヶ浦の淡水化」

先人達が生命を繋いで来た時代を十一に分けて分り易い丁寧な話で進んだ。何時の世も支配する者が現われて服従させていく。人間のその力はやがて自然をも替えて破壊し、服従させていると、改めて気付かせてくれたお話しだった。今から、私たちは何をしていくか考え動き出していかなければならない。御留川の会議や活動を進める中でも一人一人の意見や人格を大切にしていく。場所、使用する物の扱いも、結果の評価も数の多さ、華やかさに捉われる事なく進めていこうと思う。

一般質問の中で、とても純粋な発言があった。産れ育った八郷地区の山、田園風景の美しさも然ることながら水の美味しさは忘れられない。それは筑波連峰の山々、森林地帯から大地を巡って流れてきた水の美味しさですよね。現在、小川地区の田園地帯に住み、遠く筑波山が見える所で住んでいます。飲む水は、もうあの美味しさはない。山林、森林、木々は大切にしていきたいですね……。

私も全く同感だった。

学習会がすんで参加者を見送ると積極的に片付けが始まった。この時、千葉先生のご様子もお急ぎでなかった事を思うと、一寸休んでいただき、みんな話をする雰囲気づくりが出来なかったかと残念で仕方がない。

訪ねた出島の城の門は堅く扉が閉まったままだった。

今回新型コロナウイルスの広がりで、決断するには時間が掛かったが、散らし、資料の作成は手順よく進み内心よい気持ちだった。が、散らし作りで先生方の名前の間違いで手間どった。

資料づくりでは、各先生方のお話しに沿って拵えて頂くことになって、数は三十部（後々の反省でもう少しほしかった）でお願いした。会の方で用意した物はお粗末だったかなとも（御留川、干拓の事）思うが、表紙には今後一回りする四十八津（寛永二丑年の物）の絵図を載せた。霞ヶ浦の南は河川工事、埋立、住宅進出で大きく変わっているだろうが、その時は地名を元に探索しよう。千葉先生の資料の表紙は広範囲のもので興味深い絵図だ。

不参加の会員に配る資料の段階で、不揃い、数不足を確かめると、此れまた手数がかかった。

この際、第二十九回の「ごみ拾い」の際の資料作りを手掛けた。あの時は奉仕作業をして頂く形から、：と、ということではあっても、作らずあげてなかったの、この際大切に温めておいた資料（御留川歩く会始まって間もなく見つけた文化文政の洲凌賦役人足御免の訴状の絵図）を生かしたかった。纏めて仕上り、配るのに時間もかかったが、後は気持ちよかった。

冬という季節にコロナウイルスという暗雲に覆われ、押し潰されそうになった私達の周りにも花が咲き、鳥が鳴き出した。憂いてばかりいても仕様がなない。コロナウイルスの事は暫くは予断を許せぬ状況だろうから、守る事は守り、強い気持ちで今後の事を確りと考えていこう。総会にむけての準備、小冊子作り、四十八津巡り、来年度の事考えていこう。腰をあげることがこんなに重くなったのも、この頃多くなつた。でも一人で悩むことはない。会員共十七人いる。一般参加者の協力もある。みんなで知恵を出し合っていこう。

この故郷に生きている限り、霞ヶ浦の周辺で出来る世界へつながることをしていこう。

## 新型コロナウイルス感染

小林幸枝

新型コロナウイルス感染防止のため、会社から特別休暇を頂いて自宅自粛することになりました。不要不急の外出しないで自宅自粛で過ごしています。特に、私の両親は高齢者、特病持ちなので、感染するととても怖いと思います。このため、自宅自粛で助かりました。ただ病院へ行く時が一番注意しなければならぬので、気遣います。また、自宅自粛時には、ストレスを溜めないように、趣味の時間を持つようになっています。私は、マスク作りの作業をして楽しんでます。

緊急事態宣言がでても、新型コロナウイルス感染患者があまり減らずに、大変困っています。早く終息するように祈る毎日です。

ルールを守らない人達によって、医療従事者に負担がかかり、医療崩壊の危機になっています。

是非よく考えて頂きたいですね。このままでは病院機能が麻痺し、医療崩壊に繋がる恐れがあります。人口呼吸器も不足しています。

この新型コロナウイルスはインフルエンザとは違う恐ろしいウイルスです。元気な方でも急激に悪化し亡くなる可能性があります。高齢者や免疫力の弱っている方、持病が悪化して亡くなった人が多くいます。

また、集団感染(クラスター)が問題となっています。換気の悪いところ(密閉)に、多くの人が集まり(密集)、近くで会話したり、声を出すこと(密接)の3つの密が重なる感染が起る可能性があるといわれていますね。みなさん手をよく消毒してうがいをしてマスクを着用しましょう。

感染されて入院された方、自宅治療の方の一日も早い回復を祈っています。

## こだわり 洋画劇場

菊地孝夫

(父のこと)の連載は今回お休みして、これまで見てきた皆さんの映画の中から、いまだに忘れられないものを含めて、いくつか御紹介してみることにしてしまおう。外出を控えて家にいる時間が長いので、レンタルでDVDを借りて観るものいいのではないですか。ただし、筆者の多少へそ曲がりの見方が入っていることをお断りしておきます。

この辺りに映画館がなくなってしまう、映画好きにとっては、まことに淋しいことです。土浦や筑波、水戸などにも映画館はありますが、かつては歩いて行けるところに「東宝」や「国分館」と

いった古くからの映画館が有って賑っていました。DVDを借りたり、テレビ放送や、或いはインターネットなどによって家庭内でも手軽に映画を見ることができるようになりました。それでも、昭和の時代のように、映画館に足を運んで、大画面の前に座って迫力のある音響とともに映像を見ることの楽しみは、何物にも代えがたいものがあります。

試しに、今まで見た映画をリストアップしてみたら、ざっと400本ばかりになりました。勿論記憶にあるだけのもので、忘れてしまったものを含めると、この倍以上にはなると思います。それでも、思ったよりは意外と少ない気がしますが、それというのも、入場料金もどんどん上がって、二、三〇倍になったものだから、安サラーマンでは、限界がありました。

せっかく無料の新作映画の試写会も、東京まで高い電車賃を払って行かなければなりません。幾度か無理して見に行ったことはありますが、そのたびに都会に暮らす人を羨んだものでした。

「アメリカン・グラフィティ」

若き日のハリソン・フォードがチョイ役で出ている。60年代の青春もの。ベトナム戦争の前夜の束の間の青春群像。幾人かはベトナム戦争で戦死する。

「スタンド・バイミー」

ステイブ・キングの短編小説が原作。アメリカの田舎の四人の少年たちの、一夏の体験の物語。ベン・アフレックの名曲がバックに流れる映画史に残る青春映画の傑作。

スタンド・バイ・ミーとは聖書の中の文言。

「ハイジ アルプスの物語」 原題HEIDI

スイス・ドイツの合作映画で2015年に作られた、実写版の「アルプスの少女」でスイス・アルプスのふもとの情景が実に美しい。

主演の女の子の演技が、自然体で素晴らしくて野山の風景に溶け込んでいる。

「橋」

これもドイツ映画。

第二次大戦末期。敗色濃厚になったドイツ国内で、一つの小さな橋を巡る、攻防戦。駆り出された16、7歳の少年たちの悲劇が、リアルに描かれている。

6人の少年兵と、アメリカ軍の戦い。ドイツ正規軍は、さっさと撤退してしまう。取り残された少年たちは、知恵を振り絞って圧倒的なアメリカ軍と、絶望的な戦いを戦う。

「ブリッジ オブ ヘル」

ロシア・ポーランドの合作映画。

これは橋つながり。小さな橋の周辺で繰り広げられる、ソビエト軍砲兵隊及びポーランド・パルチザン兵対ドイツ軍の戦い。

修道院に取り残された、耳の聞こえない子供たちと、ただ一人この子供たちを守るシスターが登場する。

「ドクトル・ジバゴ」

ボリス・パステルナークの原作。ロシア革命を挟んで、詩人でもあるジバゴ博士の、切ない恋愛

を描いている。リメイク版も作られたが、オリジナルには及ばない。

「ジャイアンツ」「エデンの東」

永遠の青春スター、ジェイムス・ディーンの代表作。アメリカ中西部の大地主とその二人の息子たち。農場の地面からまっくらな石油が吹き上がるシーンが印象的だった。

旧約聖書のカインとアベルの兄弟が下敷きになっている。アメリカ映画には聖書の中のエピソードが隠れたモチーフになっているものが多い。

「俺たちに明日はない」

名曲「フォギーマウンテン・ブレイクダウン」の軽快な響きに載せて、ブッチとサンダンスのコンビがアメリカ西部を荒らしまわる、ピカレスク映画の傑作。このころのハリウッドは名作を続々世に送り出している。

「七人の侍」

黒澤明監督の代表作の一つ。洋画ではないけれど、外国の映画監督たちに大きな影響を与えた傑作。そのあと「羅生門」で度重なる戦火と疫病・飢饉で荒廃した都を描いている。芥川龍之介の短編「羅生門」と「偷盗」を一つにした作品。

「荒野の7人」

言わずと知れた、「7人の侍」の西部劇版。エピソードで、農民出身の若者が、村娘と結ばれるところが大きく違っている。ここはやはり元の作品のように、結ばれることなく終わったほうが、余韻を残して優れていると思う。農民と武士とで

は、身分差があつて、遂にその壁は越えられないことも示している。

「復活の日」

一九七〇年代に書かれた、小松左京のSF小説が原作。草刈正雄・オリビア・ハッセー主演。感染症によつて、世界中が破滅していく。あの頃よく書かれた、人類滅亡物SFの代表作。

映画では、草刈正雄が杖にすがり、生き残った人を求めて、一人さまようシーンで終わっている。

「さびしんぼ」

大林信彦監督の代表作。「転校生」「時をかける少女」に続く尾道三部作の一つ。この映画で富田靖子がデビュー。主演の少女の現実離れた透明感のある役を見事に演じている。また一人二役も見事に演じ分けている。大林監督は惜しくもつい先ごろ亡くなってしまった。

この会に参加して2年あまりになるけれど、試行錯誤しながら、文章を書き続けている。それまではもっぱら読み手側だったわけで、たとえてみれば車の運転手と、歩道を歩いている歩行者の関係といったようなものになる。

錆びかかった脳みそにカツを入れて、やったこともない勉強をし続けている。

多くの時間をかけてまでも、なぜこんなことをやるか。その理由は、たとえ何の成果がなくても、書くという事には意味があるという事に尽きてしまう。禁じ手だと知りつつ、始めの頃には、わざと誤ったことを書いた。反応を期待してのことだったけれど、これは不発に終わった。

書き手と読み手の間には、これくらいのこととは判ってくれよ、という暗黙の了解があると思っ  
てはいるのです。

私の事について言えは、これまで「好奇心」が本を読む原動力になってきた。中学一年の時の国語の教科書に、亀井勝一郎のエッセイが載っていた。里芋の葉に集まった朝の露が（表面張力）で丸まっていく様の美しさ、といったことを書いてあるのだけれど、少年の私には

「そのどこが美しいんだ？」

という感想しか湧かなかった。小説は読んでいて面白いけれど、随筆とか詩歌なるものはどこが面白いのか、その頃はさっぱりわからなかった。そんな人間が、今になってこうして随筆紛いのことを書き、詩の如きものを書いて、批評家気取りでいるというのも、われながら面白いと思う。

### 〈5月の空〉

燕が飛び交う季節となった。

ウイルスがはやるうとも、季節は巡ってくる。

五月と言えば5月5日のこどもの日。例年ならば、こいのぼりが空に泳ぎ、五月晴れの言葉に象徴される、晴天がある。柏餅も店頭に並ぶ。

例年ならゴールデン・ウィークで、行楽シーズン幕開けだから、テレビではあちこちの旅行シーンが放映される。今年はこの観光地も閑散としていることだろう。

五月人形は、鍾馗様という架空の恐ろしげな人物が登場する。これは悪霊退治と言っているけれど、そもそもは、中国の汨羅に身を投げた英雄・

屈原を忍んでの故事が起こりと思われる。

子供の頃風呂呂に入る時には、庭の菖蒲の葉を頭に鉢巻のように巻いたものでした。これは「尚武」にかけた行事と言われている。柏餅を食べることの起こりも同様だろう。

希望の一つは、この事態を契機として新しい文化あるいは思想が開く事にある。また、新しい経済需要が生まれるとみている人もいる。

ここで書いておきたいのは、幾人もの人がこの「風の会」を物心両面で応援してくださっていること。わざわざ現金を郵送してくれたり、この会報の印刷を手伝ってくれたり。それらの方々に感謝の意を表したいと思えます。

追記・新型コロナの影響で、4月25日の風の会の月例会も中止となってしまいました。私のマンションへのケーブルテレビの導入は、コロナ騒ぎの所為で無期延期となってしまいました。

### 風と共に 《理》

### 大輪啓展

#### 式 かぜ

4月になっても未だ衰え知らずの新型コロナウイルスは、全世界に猛威を振るっています。

すぐ近くにあるのには目には見えない、対策も曖昧な中、小さなお子様や体力の少ない人にとっては死活問題です。いつ収束するとも知れない暗闇の中にあつて、また不要不急の外出の自粛とあつて

は、心身共に疲弊している現実があります。

私自身もそうですが、未就学・学生のお子様がいる家庭では、自分・子供達のストレス、介護をなされている方々には、不足物資の重要性、マンパワーの有天性、疲労、不満。

或いは現実的な金銭的不安、質の悪いスパイラルから抜け出せずに、その日を過ごしていかなければならない、そんな毎日に辟易している事と存じます。

インターネットのYouTube等では、自宅での過ごし方について動画をアップされている方、独自の考えを持って何とかやり過ごそうとしている方々からヒントをもらい、自分なりに出来る事、後回しにしていた何かに手をつけてみるのも一計ではないでしょうか。

なによりも、1日でも早い終焉が訪れる事を心よりお祈り申し上げます。

今回のテーマは、かぜ

私は常日頃から、理を意識して生活しています。

一言であらわせるものではないかもしれませんが、これから述べていく事柄にも、前段で述べました、理といった観点からお話しさせていただきます。

風は色々なものを運んできます。

匂いなのか、勢いなのか、幸せなのか、不幸なの

か、チャンスなのか、ピンチなのか、  
時として、思いもよらない出来事が舞い込んで来るのはどれも、人生における楽しみの一つではないでしょうか。

(大輪さんは先月号から参加いただきました。  
本会への久しぶりの新規入会者です。大変な時期ですが、皆で頑張ってください)

## 【風の談話室】

### 《読者投稿》

やさと暮らし(39)

まじ女

コロナ騒ぎのお陰で、非日常の日々が続いている。4月に入ってから歩く日々が・・・八郷で生活をするようになってから、こんなに歩いたことはなかった。

・昨日は6キロ、今日は7キロ・・・1キロ歩く度に夫のスマホから知らせがあるので、励まされる。散歩の途中、藪の中にタラの芽を発見、収穫しながらの1時間半。山の美しさは最高、太陽の光加減で更に美しさが増し、歩くのを忘れてしまいます。そして夕飯にはタラの芽の天ぷら、楽しみが増します。

・気がつけばこんな季節。散歩道で見つけた鯉のぼり、庭掃除をしていた家人にお子様お幾つですか?と尋ねると2歳になりましたと、何気ない会話にやたら癒やされるこの頃です。

・今日の散歩は5キロ、50分位だったかな。家

に着いてテレビをつけると、緊急事態宣言が!本  
当にどうなるんだろう。早くこの重苦しい空気から  
抜けたいですねえ。蒲田に店を構える息子の店も  
緊急事態です。せめて花でも眺めて気を紛らわそう  
今日、今日の食材、時には藪をかき分けて・・・。

・朝から小雨が降るなか、イチゴ屋さんへ手伝いに  
(遊びに)・・・。辻のイチゴ団地は、コロナ騒ぎで  
お客様激減。それでも家族連れのお客様が狩りを  
楽しんで行かれた。ハウスの中には一組ずつしか  
入れないよう工夫し気を使っていた。昼ごはんを  
いただく、今日の田舎めしは(いなり、のり巻き、  
ふきとさつま揚げの煮物、そしてセリなど季節  
の野菜の天ぷら)食べ放題、何ともぜいたくでした。

・八郷の桜も満開、わが家の庭も花盛り・・・ウ  
キウキする季節なのに心は晴れない。コロナ騒ぎ  
は長期の覚悟が必要のよう。先日東京にいる子供  
達に電話をした。長男はイベント関係の仕事、3  
月の仕事は皆無。次男は飲食業、100人程のキャン  
セルがあったとか?その上空き巢に入れ、支払い  
のため置いた現金70万盗まれた?本当にヤバイ  
よ!と・・・コロナに感染しないよう頑張りな、  
と云うしか無かった。

・山が優しい。山桜に木々の新芽、ふんわりした  
春に誘われて、上青柳の大山桜に会いに行く。250  
年もの間この場所から人々を見守ってくれ、今は  
何を思っている事やら・・・。少し葉桜になっていた  
が、いつまでも眺めていたい思いにかられた。

途中にはニリンソウの群生地と満開の山吹、コロ  
ナの事をひと時の間頭から離れ、良い時間を過ご  
せた。

・冷たい風が吹く中、2キロくらい歩いてやっと  
体が暖かくなる。あるく中、其処此処で見れた田  
んぼは、田植えの準備で人の動きが見られた。広  
大な菜の花畑一面の黄色、そしてその隣には一面  
緑の麦畑。山とは又違った美しさ、歩きならの新  
しい発見です。

・今日の散歩は瓦会方面へ、先日狙っていたタラ  
の芽が丁度食べ頃、持参した長い枝の鎌で採取。  
殊の外たくさん収穫。夕食の膳には天ぷらが、感  
謝しながら頂いた。しかし、ここは晴れません。  
医療の現場で頑張っている医療従事者の皆さんの  
事を思うと切なくなりませう。何とか乗り越えられ  
ますように。

・今日の散歩は、山ツツジが咲き始める杉木立を  
抜けると集落があった。田んぼを挟んだ左右に建  
つ家々の立派な事。石垣もすぐ思わず写真をパ  
チリ。家に帰るとイチゴ屋さんから電話、こんな  
時期に大宴会。ストレス解消かな?

・他人に逢わないとヒト恋しくなる。朝から昼過  
ぎまで大雨・・・こういう時なら、外食(お蕎麦  
やさん)も空いている。電話で確認してから、ま  
んまや(行きつけのソバ屋)出かけた。鴨汁つけ  
麵を食べマスターともゆっくり話ができて、大分ス  
トレス解消になった。帰ってからはマスクの布探  
し。何かに使おうと思っ取って置いていた晒一反と

手ぬぐい10本、木綿の柄物布などが出てきた。ゴミ紐も出てきたので、早速マスク作りをしている友達に送ったりした。自分用にも数枚作ろうと頑張った見たが、果たして出来具合は？

・今日の散歩は7・5キロ1万3000歩。目的はカフェオリーブへ、パセオパルケの住宅街を通り、花など眺めながらの歩き。ハナミズキが咲き始めた。住宅街の手前の農道では、先日の大雨で、耕したばかりの土が大量に流れた場所もあり、歩くのが大変・・・。田んぼに水が張られ、カエルさんの大合唱が始まっている。

### 〈納得いかない〉

燕石山人

4月21日の時点で、茨城県の新型コロナウイルス感染者数は135人を超えている。全国11位の多さだ。国全体では1万人を超えた。僅かに岩手県だけが一人も出さず頑張っている。

### 「見えない敵と戦う」

勇ましいことをおっしゃっているが、こいつ(COVID・19)の正体はナノミクロンサイズなので、肉眼では見ることができないが、電子顕微鏡を使えば見えるのです。ナノとは10億分の1のこと。本当に小さい生物です。

ただし、とても手ごわい相手なので、人類には立ち向かえる武器が今のところ全くありません。

おおいくさをするに当って、一番避けなければならぬのは、「兵力の逐次投入」ということ。そして最大限のものを一極に素早く集中しなければ

効果が得られない。

つまり、コロナウイルスという強敵と戦うときは、ちびちびとしみったれて小出しに兵士(医師、看護師、検査技師、医療機の操作技師、etc)や物資(マスク、保護具、と接触者外来診療所と資金)を送っても勝てっこないのです。

しかもその金は、もともとは我々の税金なんです。よ。こんな非常時に使わないで、いったいいつ使うというのかね。

強敵と戦うときの一つの方法としては、和睦すること。ウイルスとの共存を図る。ウイルスは人類がこの地球上に現れる遙か以前からの存在。

1929年の「世界大恐慌」の再来かともささやかれている。

今の状態が緊急事態というなら、しみったれた経済対策・医療対策が、焼け石に水なのは、子供でも判る道理だろうと思えますけどね。

3・11以降、緊急事態に対して対処する方法が少しは進歩したかと思っただらばこのていたらくである。災害に対する教訓が一つも生かされていない。総理官邸には、日本版NSA(国家安全保障対策室)が設置されたということだが、これがまたまともに機能していない。

国の財政損失を恐れるあまり、思い切った施策が取れていない。

あるいはこうした時の施策は、官僚特有の発想から、足して二で割る式の、調整型のどっちつかずの中途半端なものになっている。

最大規模の予算と言っているが、過去、第2次大戦の当時はGDPの50パーセント以上を出している。今回、GDPの20パーセントと言っ

いるが、その中身はせいぜい10パーセント以下。嘘をついてはいけないよ。

低所得世帯に最大30万円を支給すると言っていたが、その支給基準が複雑でわからない。急遽制限を設けず、一律一人当たり10万円とすることとするという。麻生財務大臣も、自説を枉げて、しつじぶ10万円案に賛同。まだ未練たらしく、貰いたくない人は手を上げなくてもよいなどとぬかしている。

さらに、リーマンショックの時12000円を配ったが、退蔵されてしまい経済効果はなかったから今回も一律10万円はやめようと主張していた。あまりの現状認識のなさに非難ごうごう。ついに白旗を上げた。

この案が、国会の承認を経て実施されるのは早くても5月。場合によっては6月になるだろう。

3月の予算編成の段階で、これらの方策を決定しておけばよかったのだ。

新型コロナウイルスという、正体不明の敵を甘く見ていたと言われても仕方なからう。

一方で、地方の小さな自治体の中には、市長や町長の独断で少ない予算をやりくりして、市民一人一人に5000円の現金を配ったり、小規模事業者者に直接資金を提供したりしている。

行動変容などと、又々妙な言葉を流行らせて、妙なことを押し付けようとしているかと思える。

真に行動変容が求められているのは、頭の固い政治家、官僚諸氏達であると思う。

何かを要請するのならば、その見返りを提示するのは至極当たり前の話だろう。

あと一、二週間、あと一、二週間と何度も言っているが、その間に、ああでもないこうでもない

いと小田原評定をするばかりで、なんら有効な方策もたたず、いたずらに大事な時間だけを浪費し続けてしまった。

この期に及んでの緊急事態宣言の発出。発効は、4月8日付け。

この日は奇しくも灌仏会・お釈迦様の日に当たっている。これは、「オシヤカになっちゃう」の洒落なのか？

全く笑ってしまう。しかも実質的発効は3日から6日もかかっている。さらに、4月17日に至って、東京都などだけでなく、全国に発出するという。

一つ気になるのは、このウイルスは犬、猫をはじめ動物にも感染するという事。総理は、自宅で小型犬とくつろぐ姿をインターネット上にアップしているが、ペットとは濃厚接触してもよいのかな？いったい何を考えているのやら。

#### 「底辺層の人々への支援」

救済策で未把握の人がいる。外国人労働者。不法滞在者。国内に逃げてしまって、行方のつかめない留学生達。戸籍に載っていない、いわゆる無戸籍の人。

これ等の人々に対する対策はしっかりと立てられているのでしょうか？

たとえばインターネット難民と呼ばれる人が、都内で4千人以上。埼玉県では、1000のベッドを用意したというけれど、1週間だけという。5月6日までどこで寝たらいいんですかね。

或いは各種の通達にしても、インターネットやらのITを使えというが、パソコンもスマホも持

たない人は一体どこから情報を入手すればいいのでしょうか？

これ等の人々は、同時に老人であったり、生活困窮者であったりもする。社会的に底辺にいる人たちは、今回の事態でさらにいつそう苦しい立場に立たされようとしている。

票にならないので、政治家は全く知らんぷり。ほんの一握りの人びとの善意だけが、唯一の助けとなっている。

格差を拡大する政策がとられ続けてきたために、底辺層は増大の一途をたどっている。失業者の増大が、結果的に経済を押し下げることとなる。

コロナの後のV字回復なんて言っているが、これでは到底V字回復は望めない。

経済面では、即刻すべての人に一律現金支給、と同時に消費税を当面ゼロにすること。

医療面では、全ての人の免疫検査を実施すること。これにつぎると思う。

TVに出てくる当事者は、あれこれ言っていてできないことの言い訳ばなばかり語っている。正直なところ、毎日うんざりしてしまう。

日本は本当に先進国なのか？ 今回の事態で、様々な問題点がよりいっそう明るみに出てきた。

大都市への一極集中の弊害が言われて始めてから久しい。3・11で東京の脆弱さは十分経験したと思うけれど、地方への機能移転が進んでいない。

のど元過ぎればで、生活必需品の備蓄や、仮設の建物の手配などあらゆるハード面が、ほとんどなされていないことが、今回見事に露呈した形となった。

#### 「コロナと安全保障」

アメリカ第七艦隊の二隻の原子力空母の内、セオドア・ルーズベルトでは大規模感染が発生して、グアムで停泊中である。感染者は500人を超え、死者も出ている。もう一隻は、横須賀で待機中であって動けない。

アメリカの保有する11隻の原子力空母の内、4隻でウイルスの感染が見つかったという。通常空母は半数が、待機してドックに入ったり、乗組員の休養に当たったりする。実際に行動できるのは、半数という事になる。

現在、日本近海の制海権は中国にうつっている。どうすんのかね。今なら、たやすく中国がアジア圏の支配者となりうる。安全保障とかよく聞くけれど、今の事態ではお手上げである。

アメリカ本国では、陸軍がてんでこ舞いで、他国に出勤する余裕などない。

3・11以降、緊急事態に対処する方法が少しは進歩したかと思つたらば、この体たらくである。災害に対する教訓が一つも生かされていない。

総理官邸には、危機管理の為の日本版NSC(国家安全保障対策室)が設置されたというが、まともにも機能していないのか、設立間もないためうまくいっていないのか。

早い段階で、アメリカが行ったように、海上自衛隊の保有する病院船を活用すべきだった。また陸上自衛隊は、即時にアメリカ軍が行った野戦病院を展開できる筈である。こうした装備は十分に持っている筈である。

3万トンクラスの空母や大型輸送艦があるのだから、その船倉や格納庫にベッドを並べ、臨時の隔離病室にすればよい。そこに医務官などを派遣すればよい。こういう非常事態の為に存在する組織ではないのか？

もしこれらの方策が取れないということなら、一国の安全保障などを語る資格は全くない。

散々待たせたあげく、マスクを一世帯に2枚配り、月に6億枚増産とかいつているが、その前に、市場には大量のマスクがあふれていることだろう。なぜなら、中国をはじめ世界中で大増産しているし、国内でもそうだ。あるいは各家庭で手作りしている。マスクに関しては、民間の力に任せればよかったのだ。しかも配布のものには大量の不良品が混じっている。一体どこから仕入れたのかね？厚労省のお役人様。

COVID・19の初期症状の一つは、味覚異常だとか。上顎の奥にウイルスが取り付くことによつて、嗅覚に異常が起こる。それによつて味覚が無くなり、食欲も無くなるという。

死亡者数からみると、男性の高齢者が4分の3を占める。喫煙との関連が言われている。

麻生副総理は会見の中で、知り合いの富裕層の話として、われわれが10万円を受け取ってもいいものかどうかと言っていたという。

経済界の重鎮からも、異論が出ている。

それらの金持たちは、その権利を放棄すればいいだけのことで、そういう制度でない場合には、全額寄付をすればよいだけのこと。こうしたつまらない発言が素早い対応を遅らせている。

この流行は収束まで2、3年かかるといふ見方が世界の主流らしい。オリンピックの開催など、いい加減諦め、それにかかる数千億円の金を、新型コロナ対策、または経済対策に回すべきだ。

## 茨城県の難読地名とその由来(2)

木村進

### 木葉下【あぼつけ】

水戸市

「木葉下」は茨城の難読地名で最も有名なものの1つです。

「あぼつけ」と読むのですが、この謂れについてはかなりいろいろな説があります。

1、「角川日本地名大辞典」にはいくつかの説が列挙されています。

(1) 鎮守香取神社を下総国香取神宮から勧請(かんじょう)して遷座する際に榊葉の裏に御影を顕したということによるという説

(2) 山肌の崩れた所を「ぼつけ」、赤土が露出した崖地を「あかぼつけ」などといいそれが転訛したという説。(新編常陸国誌)

(3) 木葉下の字は当地に大樹の美蔭があったことによるという説。  
を挙げています。

2、「今昔 水戸の地名」(堀口友一著)には、

「慶長三年(1598)の検地帳(佐竹氏が行った検地)にはアホツケ村とある。高田与清氏によれば、ホケはハケまたはカケで、山の岨(そま)などの

土のかけやすいことから起こった語であるという。木葉下とはそのような場所の大樹の陰の意味であるといわれる。西端に水戸市で最も高い朝房山がある。この朝房の下にあることからアボ下の地名が起こったとも考えられる。」と書かれています。これは前述の(2)(3)とほぼ同じです。

3、「常陸国風土記と古代地名」(鈴木健著)には、「この山(朝房山)の直下に水戸市大字木葉下(アボツケ)という珍しい地名があり、そこに朝房下という小字がある。もし他にアサ○○のサが脱落してア○○となるような類例があれば、朝房下は、アサボウイシタ↓アボウシタ↓アボウケ↓アボツケとなり得る。……………」

また「もしこの山の形が人の寝ているように見えたとする」と、「アア・一般称。人にあたる言葉、*awoko* ほツケ・寝る」アイヌ語ではp・t・kが隣にあった場合、前のものが後のものに同化するの、*hoko*は *hoko* となるからアホツケ。古くからこの山をアボツケ(ヤマ) Ⅱ人が寝ている(山)と呼んでいたことはなかっただろうか。やがてそこから、朝寝坊という連想が生まれ、アボツケのアボと朝寝坊が重なり、アサボウ山と呼ばれ、アボツケの方はケが下ということで、山下の地の名前に変わったのではないだろうかと考えてみたこともあった……………」

これはアボツケを朝房山や朝寝坊伝説と関連づけた話であり、地形から見ると、「*bo* ほ」・「*tsu* づ」・「*ko* け」・出崎の突端の崖 Ⅱ下の崖ふちがある。その発音に木葉下(ボク・バ・ケ)が当てられ、山茶花(サン・サ・カ)の発音が(サザンカ)と逆転したようにハバツケとなった。あるいは、

そのpageの転と思われるが、関東で崖をカケとかバツケと言うので、崖下をハケシタとかバツケシタと言ったことが考えられる。・・・などと言っています。

崖下をバツケ、ハケなどという呼び名は結構各地にあります。この木葉下(アボツケ)を私は何度も訪れてみても、どうもこの崖下というイメージがわいてきません。

水戸の市内から来ると確かに山間の薄暗い場所です。起伏もあります。また近くにたくさん古墳があり、大きな古墳公園もあります。

4、アボツケは古朝鮮語で「焼き物を焼く里」で、粘土などの意味もある・・・。

根拠があいまいなのですが、この説明があつていとすればイメージ的にはとてもよく合います。この近く(木葉下三ヶ野地区)には奈良時代の須恵器を焼いた窯跡があり、約40基の登り窯があつたことが確認されていて、「木葉下遺跡」と呼ばれています。

ここから出土した瓦は、いわゆる台渡里廃寺「徳輪寺」の後期の造営に用いられたものということがわかっています。

## 月出里【すだち】 稲敷市

「月出里」は「すだち」と読みます。この謂れについてもいろいろな説があります。

1、「角川日本地名大辞典」によると、江戸の元禄郷帳や天保郷帳などに記載されている村名は

「月出村」とあり、これで「すだちむら」と読まれています。これが「月出里村」と「里」の字を入れて「すだちむら」になったのは江戸末期頃からで、明治22年に村の合併などの変更により村名が消え、大字「月出里」(すだち)となった。

名前の由来については

(1) 地内に大清水という字があり、清水の湧き出る地に由来するという説

(2) 地内に上谷原という字があり洲がたつている地に由来するという説

(3) 「出をタチと読めるは、めでたし。月出をツイタチと読めるタチと一つなり。また按ずるに、ツイ(月)の反音チなり」として【チタチ】の音が【スタチ】に転訛した。という説(「新編常陸国誌」)

2、「筑波地方の地名の由来」(中山満葉著)

によれば、月出里の「月出」は「朧(ひ)」のことです。「三日月」。やつと新月が現れ光彩が放たれ始めたさまで、月出里はこういう月を由縁にしている地名であれば、月讀命を祀っているのではと思われれる。その祭神をもって地名にしたのだと思うが、つくば市吉瀬の三日月神社が祀っているのもやはりこの月讀命である。三日月神社は言い換えれば朧神社であり、この月出里も書きかえれば三日月の里、朧の里、朧里(ひり)である。という三日月説

3、地元(旧江戸崎町)の説明には「月の出る夜に、鳥が一斉に飛び立つ里」の意味だと合併前には書かれています。しかし、実際に言ってみても、この場所が渡り鳥が一斉に飛び立つ場所と

も思われません。湖があるわけでもなく、夜になれば辺りは暗く特に鳥の飛び立つイメージは湧いてこない。

「すだち」というと徳島名産の「スタチ酢橘」思い浮かべるが、地元で「すだち神社」と呼ばれている鹿島神社(八坂神社も併設)に酢橘の木があつても、それまつわる話もないようだ。

古代の「信太郡」の郡衙があつたとされる小野川沿いの「下君山」から、この月出里を結ぶ道路が直線的にのびているが、古代の官道の遺構は発見されていないという。

## 【特別企画】

### 打田昇三の将門記 「罪と名声」(五二)

日本は民主主義のお蔭で、名門もボケモンも一般化しているようではあるが、封建的制度が長かつた所為で近代でも一部には家ガラとか鶏ガラとかに拘る古老も居る。以前のことが、小藩ながら殿様の子孫からお話を伺う機会が有り、財力で其の藩の重職になったと言われる人物を話題にしたところ、即座に「あの方は農民の出です!」と軽くないなされたことがある。「土農工商」制度は現代にも後遺症を残していたのである。

猿から進化したらしい人類は縄張り争いに代わつて家系や出自を誇りたがるようだが、威張るならば元祖の猿を自慢すべきである。今も御健在?かどうかわからないが、お釈迦様が学校を開いていた印度の聖地シユラバステイ(祇園精舎)の遺跡入口には、貫禄の有る大きな猿殿が座っていて見

学を訪れる身分の低い観光客を睨みつけていた。

其の大猿に比べれば末流だと思いが、皇統とは言っても幾つかの段階を経過して下総国に土着した平将門が思いがけず小規模な合戦を通して北関東の覇者となった。然も、何処から来たか分からない怪しい巫女さんに煽てられて「自分も天皇になれる」と思い込んだ。平家や源氏は天皇の血筋に違いないから冗談が冗談では済まされ無くなるけれども、都で開業していた「天皇家」にとつては許し難い商売敵になる。時の勢いで皇位を称した将門も少し気が咎めたのか、今回は言い訳とも思える書状を都へ出すことになった。

### ○撰政忠平への書状

字を間違えると「殺生」になるから気をつけなければならぬが「撰政」とは君主（天皇）に代わつて政務を行う者らしい。其の頃の撰政・藤原忠平は、将門が都に居た頃に仕えていた主君であった。余計なことだが、忠平の妹・四人は天皇の後宮に入り末妹の穩子は醍醐天皇の皇后となつて朱雀天皇と村上天皇を生んでいるから当時の日本で一番に偉い人と言うことになる。平将門も、そういう人物に手紙が出せるほど出世したことになるのだが：原文は手紙の本文から始まっている。

将門が謹んで申し上げます。

殿下から親しく御教訓を頂かぬようになってから（御無沙汰を致して）多くの歳月が過ぎてしまいました。出来るならば、拝顔の榮を賜りたいところですが、それも叶わず、急なことで何から申し上げてよいか言葉に迷っております。どうか私の意をご賢察頂ければ有難く光榮に存じます。

去る年に、源護らの訴えにより、此の将門は都に召喚されました。畏れ多く存じましたので此の将門は直ちに上京し、（殿下の）御館に参上致しましたところ、「：将門のことは、既に（天皇の）恩赦に浴することになった。依つて帰省を許す：」とお言葉を頂戴致し心安く郷里に戻りました。

その後は合戦のことなどを忘れて穏やかに暮らしておりましたが、前下総介・平義兼（伯父）が数千の軍勢をもつて此の将門を襲撃して参りましたので逃走する訳にもいかず防戦を致しました。此の為に敵に殺傷された者も居り、奪われた物もあるのです、其の事を下総国の公文書に記録して政府に報告を致したところ、朝廷からは「諸国が力を合せて良兼らを討て：」との命令書を頂戴致しました。その中に良兼の病死などにより此のことは落着致したのですが、如何なる訳か、将門を都に召喚する：との御沙汰を賜りました。

是は納得がいかないことなので上京は致さず使者の英保純行（あなほのともゆき）を介して事情を説明しております。是に対しては未だに何の御裁可も頂けず、気になつて居りましたところ、今年の夏には事もあろうに私が敵として追求めておりました平貞盛が「将門を召す！」とする朝廷の命令書を持つて常陸国へ戻つて来たのです。

其の為に国司は、此の将門に対して国府に出頭するように書面で何度も促してきました。平貞盛は、私・将門が追い求めているのを逃れて上京した人物ですから政府としては当然ながら逮捕して理由を糺すべきでしょう。それにも拘わらず何もせずに、一方的に貞盛の言い分だけを認めて此の将門を糾弾するのは欺瞞行為だと思います。

それに加えて、右少弁（太政官の高官）源相職

（みなものすけもと）が殿下の御命令で書き送つて来た書状には「武蔵介源経基の告訴状により国府に対して平将門を審問せよ！との命令が下ることが決定している：」と書いて有りました。

私・将門は都からの御使者が御出でになり正しい判断が下されるのを心待ちしていたのですが、其の頃に常陸介・藤原維幾殿の嫡男である為憲が父親の威光を笠に、罪の無い者を陥れたりしているのを知りました。それを訴え出たのは私の配下に居る藤原玄明と言う者です。私は事実を確かめるために兵を率いて常陸国へ向かいました。

為憲と貞盛は三千の国府軍を私的に徴発し国府の武器などを使用して戦いを挑んできましたので私も已む無く應戦して是を撃破したのです。

その際には、敗れた国府軍に犠牲者が出ましたし常陸国府を占領しましたので捕虜とした者もなく有りません。常陸介・藤原維幾は息子の為憲を教導せずに兵乱に至らしめた罪を謝しておりました。此の事は私・将門の本意では有りませんでした。常陸一國を滅ぼしてしまつたのですから百鬼を滅ぼしたと同様に罪は重いと自覚しております。私は、是に対する朝廷の裁きがどの様になるのか、其れを見定める為に、此の度は敢えて坂東の諸国に進出したのです。

良く考えてみますと私も平家に連なる者で桓武天皇から五代の孫になります。もし皇位を継いでいれば全土に君臨するのですから、仮に私が日本国の半分を領したとしても見当違いには当たらない筈です。そして、其の様な運が私に無いとは誰も言えないでしょう。昔から、武力を以て天下を手中にすることは史書に見られるところであり、此の将門は其れが出来ると思っています。

それにも関らず今回の私の挙兵に対しては政府が褒賞するどころか、罪を追及する公文書を何度も発行されているのは誠に残念なことです。反省をすれば確かに私にも至らぬことは多く有り、その点は面目次第も有りませんが、どうか私の心中を御推察頂き、然るべき御理解、御配慮を賜れば誠に有難く存じ上げます。

そもそも、此の将門は少年の頃に名簿（みょうぶ）主従関係の証しとして出す名簿を大殿に奉ってから数十年を経て今に至りました。その大殿が太政大臣・摂政となっておられる現代に凶らずも今回のようなことで御心を悩ませてしまい、誠に（我ながら）嘆かわしく申し上げる言葉もありません。此の将門が仮に国家を転覆させようと企んでいるとしても、旧主であられる大殿のことは忘れることが有りません。此の心中を御推察頂ければ誠に幸いに存じ上げます。此の一文に万感の思いを込めております。

将門謹言

天慶二年十二月十五日

謹々上 太政大殿の少将閣賀恩下

現代はどうか知らないが、当時の主従関係というのは、一旦、是を結ぶとかなり厳密なものがあつたようで、日本の王者になる覚悟で挙兵した平将門も誠に低姿勢である。ただし、此の書状そのものが実在したのか、或いは後世の創作なのか、明確では無いらしい。

### ○将平・員経の諫言

将平・員経と言っても余り知らない人物なので最初に紹介して置く。諸説はあるのだが将平は大芦原四郎と称し、将門の弟らしい。将門の本拠に

近い現在の石下辺りに居を構えていたとされる。名前のとおり大芦原（湿地帯）を開拓していたのであろう。員経（かずつね）は伊和を姓とする将門の側近である。此の二人が、帝王として進出を図る将門を諫めようとするのだが、誰かに止められて中止するぐらいならば最初から行動しない。それでも将平と員和は、他に誰も居ないところで次の様に将門を諫めた。

「そもそも帝王の地位や權威などは人間の智慧や競争などで求め得るものでは有りません。昔から現在まで天下を自ら治めたとする君主も、或いは父祖から功業を受け継いだとする王者も、其れは天から与えられたものなのです。其の事を軽々しく考えて行動すれば、必ずや後世の人々から非難されることになるでしょう。どうか、思い留まつてください：お願い申しあげます：」

真剣な二人の懇願に対して従来の将門であれば素直な態度を見せるのであろうが、其の時は勝ちに乗っているから聞く耳を持たない。神掛かつた態度で天皇が勅語を下すように厳肅に答えた。

「弓矢の武芸（軍事力）は、従来も国家の危急を救うことが少なく無かつた。此の将門は度々の合戦で坂東一帯に武名を轟かせ、戦さ上手（いくさじょうず）の噂は都にまでも聞こえている。

喰うか食われるかの時代には、必ず合戦に打ち勝つ者が君主となる。其の例が我が国には無くても異国には有る。例えば延長年間の大契丹王（だいきつたんおう）十世紀十三世紀の「遼国」などは（九二六年）正月元日に渤海国（ぼっかいこく）中国東北部・朝鮮北部）に攻め入り、是を討ち取ってから東丹国を改めて領有した。力の有る者が征服をする道理である。

我が軍は多くの軍勢を擁している上に、是までの合戦に勝利を続けており兵士の士気も高く、山を越え岩をも砕く気概に満ちている。其の信念は漢国で知られた高祖の軍に劣らない。坂東八か国を占領している間に、もし都から朝廷の軍勢が押し寄せて来たとしても足柄山と碓井峠の関を堅守して是を撃退する自信が有る。そう言うことであるから、お前たちの心配は全く無意味である：」

“聞けば聞き腹”と言う諺が有って、どの様な心の広い者でも自分の弱点を指摘されれば腹が立つものであるらしいから、当時の平将門の様に神がかつていた者に諫言するのは、かなり至難の業ではあるけれども、家臣にしてみれば主君の暴走を何としても止めなければならぬ。

側近中の側近である伊和員経は、一度は引き下がったけれども将門の機嫌が良い時を選び、決意して再び次の様に諫言をしたのである。

「：誠に畏れ多いことながら、主君に対して御忠告申し上げる家臣が居れば其の主は不義を犯すことが無いと言われますので再び敢えて言上致しますが、先に将平殿と私とが申し上げたことが果たされなければ、国家が争乱に巻き込まれて危険な状態になることは明白です。是を古来から：天命に逆らえば忽ちにして禍が生じ、帝王に背けば重罰は免れぬ：と申します。どうか、お願いですから新天皇（将門の自称）に於かれては耆婆（ぎば）古代インドの名医で反逆の所業に走る兄を諫めた）の様な方々（将門一族）のお言葉に耳を傾けて頂き、優れた御裁断を下されますようお願いを申し上げます：」

是に対し将門天皇は予測どおりに不機嫌になり天皇らしく、然も天皇らしく無く、完全に頭に來

た様子で答えた。返事を貰えただけ好運である。「優れた才能も、人に依っては自分の身を滅ぼす罪になり、人に依っては身を助ける喜びとなる。古来から君主が言葉の口にした以上は“四頭立ての馬車も及ばぬ(取り消すことは出来ない)”というではないか。君主の言葉は取り消せない、という意味の諺に、論言汗の如し、もある。そうであれば、実行する他は無い。決めたことを撤回しろ……などと言うお前たちの頭はどうかしている！」

正論では無いが自信満々に其処まで言われると諫言をする者も黙っている他は無い。それ以後は暴挙とも言える行動を止める者が無くなった。

### ○新政府の構想

平将門にとって不幸であったのは、弟や部下にまともな人物が居たのに、取り巻き連中が野心家で冷静な判断をする者が居なかったことである。

皇族の端くれでありながら問題人物の武蔵権守興世王は、平将門が思い上がった行動をするようになった火付け役で有り、言わば平将門事件の首謀者でもある。其の指示に基づき、藤原玄茂らは新皇の宣旨(せんじ)天皇の命令を伝える公文書として次の様に国主などの任命を行なった。然し日本は六十余州(国)と言われているのに、将門が抑えた範囲は関東地方のみであり、然も興世王自身は武蔵権守の俣で上総介を兼任している。

下野守—平将頼(将門の弟)

上野守—多治経明(将門の重臣、将門が管理していた官営牧場の責任者)

常陸介—藤原玄茂

上総介—興世王(武蔵権守との兼務?)

安房守—文屋(ふんやの)好立(将門の重臣)  
相模守—平将文(将門の弟)  
伊豆守—平将武(将門の末弟)  
下総守—平将為(将門の弟)

この人事には肯定・否定の各説があるらしいが、原本・本文に依っておく。なお厳密に言う多治経明を充てた上野守は常陸守と同じく皇族以外ではなれなかった職である。それを承知で、将門が此の人事を認めたとすれば其れだけでも「反逆」と認定される要素になる。いずれにしても結果的には絵に描いた餅でしかなかった。

将門を天皇とする暫定政権は、同志以外には通用していないけれども、関東王国を建国する為の準備を始めたのである。なお原本には以上の人事のほか「且つ諸国の受領(ずりょう)を点定(てんじょう)指定(しじ)とあるから、他の諸国国司も冗談半分で決めたかも知れない。

冗談にしても夢にしても、王国が有れば王城も必要になってくる。そこで親分などと言うのは畏れ多いが、将門公が住んで居られた下総国(将門邸)の近くに王宮を建てることにした。その際には該当地域を京都近辺の名称に擬(なぞ)らえて呼ぶことになり、下総国相馬郡の「大井の津」が「京の大津」に変えられるなど、地元の地名が変更されてしまった。その手続の為に左右大臣、大中・少納言、参議を始め、文武百官と呼ばれる各省庁の役人を選び出し、役所で用いる公印を規定通りに作った。ただし諸行事の規範となる暦を作る専門職だけは、どうしても適任者が得られず一番大事なポストが空白になった。当時は何かを行う度に占いをしていたのであるうからには痛い。

かつて明治の文豪・幸田露伴は「平将門は源頼

朝の恩人である」と評したらしいが、確かに頼朝は将門と同様に確かな兵力も無い……と言うより懲役刑の囚人である立場から挙兵して遂に平家を倒したのだが、其の時代には諸国の武士が平家政権に飽きていたのである。将門が挙兵した頃は藤原氏全盛時代であり、而も藤原氏は天皇家に寄生していたから、如何に正義が有ろうと武力蜂起は朝廷の覆(くわ)の陰謀(いんぼう)と同じ視(し)されてしまい、不利である。

続く

(お詫び)先月の4月号の号番号が166号となっていました。167号の間違(まち)いでした。ここに訂正しお詫(わ)び申し上げます。

## ふるさと風の会会員募集中!

当会では、「ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集しております。

自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高くふるさとを語り、考える方々の入会をお待ちしております。

会の集まりは、月初めに会報作りを兼ねた懇親会と月末に雑談：勉強会を行っております。

会費は月額2,000円。(会報印刷等の諸経費)

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

打田 昇三 0299-22-4400 兼平智恵子 0299-26-7178

伊東 弓子 0299-26-1659 木村 進 080-3381-0297

編集事務局 〒315-0014 石岡市国府 4-3-32 (木村)

HP <http://www.furusato-kaze.com/>